

高等部の 一年間の研究

「作業学習」に着目し、各教科及び自立活動、家庭生活（保護者との連携）との関連付けを整理しながら、活動の充実を図る。

1. テーマ設定

アンケート：作業学習の中で、高等部で取り組みたいことは？



【現状】学部課題は？

作業学習の中での働く力の実現

力（教科等）と姿（生活像）の乖離

本人・保護者・教師間の卒業後の姿のズレ

進路に応じていない作業内容

【内容】何に着目する？

※働く力を、仕事だけではなく生きる力とすると…

卒業後に必要な力の分析

卒業後に必要な力の情報を共有するシステムの考案

【ゴールイメージ】学部や個々の実践がどのようになっていたい？

卒業後の主体的な生き方の実現

作業学習による必要な力の実現

卒業後に必要な力の情報共有

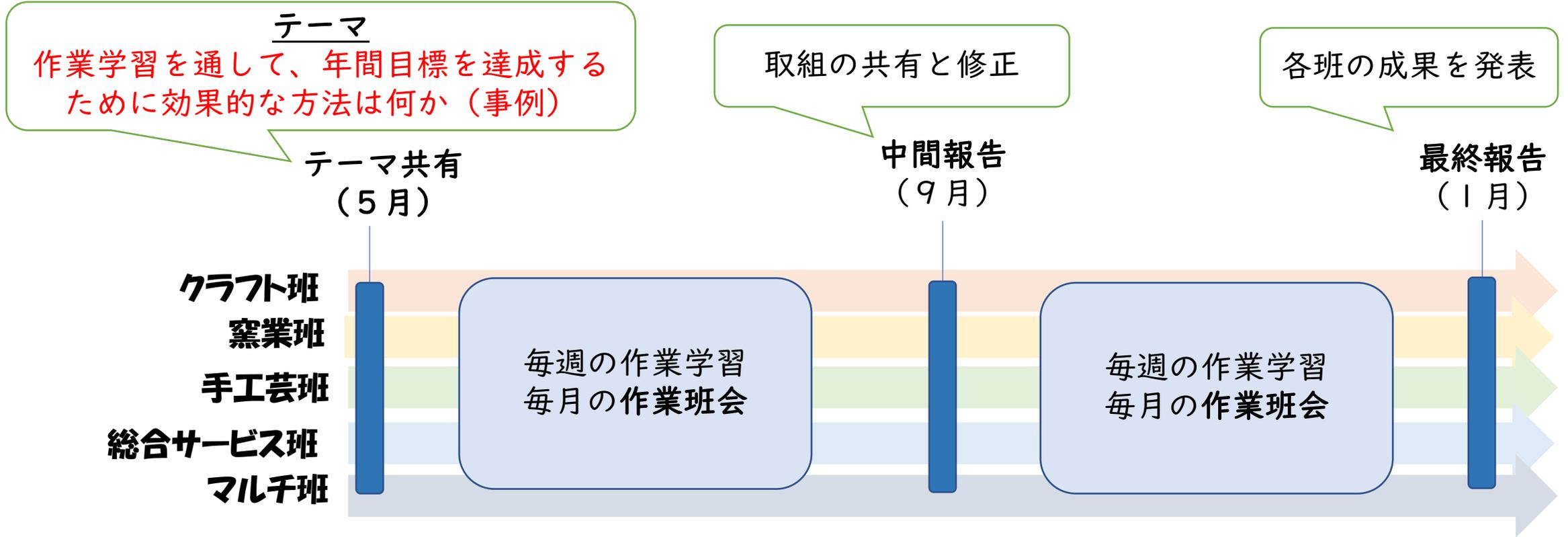
教育課程の工夫による生活像の達成

まずは…



Q.作業学習を通して、年間目標を達成するために効果的な方法は何か（事例）

2. 取組の方法



事例1：高等部3年 Aさん



【年間目標】

- 1 自分に合った整理整頓、身だしなみを実践することができる。
- 2 自分の考えを伝え、周囲の人と相談して活動の段取りをすることができる。
- 3 相手の気持ちを考えた、具体的な言葉遣いやマナーを身に付けることができる。

【作業学習中の実態】

- 素直に指示を聞いて真面目に取り組むことができる。
- メモを取ることができる。
- ▲磨き作業や木材の接着など単調な作業では、集中が切れやすい。
- ▲自分から報告をすることができるが、力加減を調節したり全体を捉えながら形を整えたりすることが難しく規格外の製品になってしまうことがあり、仕上がりにムラがある。

【実践内容】

- * **現場実習評価表**の活用
(実習先の評価と定期的な作業学習での**評価を比較、振り返り**と**課題の共有**)
- * **得意な作業の検討**
(**報告の頻度**、集中の持続、道具の選択)

【成果】

- * 実習先と学校での評価の違いを数値で見ることができた。「作業態度・能力」に現場と学校で評価の差は見られなかったが、「**対人関係**」の面で**実習先では低く評価**。誰にでも報告できるスキルの**獲得が必要**だと気付くことができた。
- * 手磨きの作業から道具を使ったサンダーに変更したことで、集中の持続の評価が上がった。**報告の頻度**、メモを活用した手順の確認が増えたことで規格外の製品が減った。自分に合った道具を自ら選ぶことができた。

作業日誌の変更

○現場実習評価表を活用した作業日誌の改良

作業日誌

月	日	曜日	天気()
ふり返り (◎できた ○だいたいできた △できなかった)			
準備			
準備			
準備			
あいさつ・返事ができたか。			
報告・連絡・相談ができたか。			
自分から進んで準備・片づけ・掃除ができたか。			
安全に作業に取り組むことができたか。			
集中して作業に取り組むことができたか。			
周りの人と協力して作業に取り組むことができたか。			
時間を意識して行動することができたか。			
本日の作業内容			
感想 (学んだこと・がんばったこと・できるようになったこと など)			
自分へのアドバイス (次の作業学習に向けて)			
先生から		備考欄	



作業日誌

月	日	曜日	天気()
本日の作業内容		先生から	
ふり返り (できた 5 4 3 2 1 できなかった)			
本日の目標		自己評価	先生の評価
作業目標			
作業目標			
作業目標			
あいさつ・返事ができたか。			
報告・連絡・相談ができたか。			
感想 (学んだこと・できるようになったこと・がんばったこと など)			
備考欄			

【本日の作業内容】【本日の目標】
朝礼時に記入し、見通しを持って作業学習に入ることができるようにする。

【目標】【振り返り】
・前年度の現場実習評価表をもとに、生徒と相談しながら記入する。
・現場実習評価表に合わせて5段階で振り返りをする。

3. 成果と課題② 窯業班

作業学習で年間目標を達成するには…

項目	評価	評価	評価
...

教師の評価
※全職員で評価

現場実習評価
※項目を統一

振り返り

振り返り

作業目標
決定

作業内容
確認



作業学習

月	日	曜日	天気
...

作業日誌

月	日	曜日	天気
...

作業日誌

実習評価表と
作業日誌を再
活用しよう。



窯業班

- ①教師の評価、自己評価、現場実習の**評価項目の統一**により、活用しやすくなった。
→評価を活用させることで、生徒が**学習や実習を振り返り**、**具体的な目標**を立てやすくなった。
- ②**全職員で評価**をすることで、様々な視点から**評価の整合性**が高まった。
→**担任と評価を共有**する方法に課題が残る。
- ③作業日誌の様式を変更することで、評価を活用するなど**目標達成に向けて自律的に学習**できた。
→作業内容を**自ら把握**したり、**課題を設定**したりすることで、生徒の質問や行動の質が上がった。

・作業評価方法の見直し

窯業班 1学期 振り返り

名前

1学期の自己評価をつけてみよう!

個人目標	評価
生徒用	5 4 3 2 1
	5 4 3 2 1
	5 4 3 2 1

項目		評価		
作業態度	素直さ	指示や注意に対し、素直に応じることができる	5 4 3 2 1	
	意欲	意欲的・積極的に仕事をしようとする	5 4 3 2 1	
	責任感	仕事をきちんと最後までやり遂げる	5 4 3 2 1	
	協調性	周りの人と協力して仕事ができる	5 4 3 2 1	
	報告	必要な場面で適切な報告ができる(失敗したときなどを含む)	5 4 3 2 1	
	時間の理解	時間を意識して行動できる	5 4 3 2 1	
	作業能力	持続性	決められた時間、最後まで仕事をする	5 4 3 2 1
		効率性	時間内に仕事を効率よくできる	5 4 3 2 1
確実性		指示された仕事(作業)内容を理解し、行うことができる	5 4 3 2 1	
順応性		場所や内容の変化に応じた仕事ができる	5 4 3 2 1	
準備・後始末		準備・片付け・清掃ができる	5 4 3 2 1	
操作性		機械や用具の扱い方を理解し、使用することができる	5 4 3 2 1	
安全性		安全に対する注意力がある	5 4 3 2 1	
対人関係	体力	仕事に必要な体力がある	5 4 3 2 1	
	挨拶・返事	気持ちのよい挨拶や返事をするすることができる	5 4 3 2 1	
	言葉づかい	相手や場に応じた言葉づかいができる	5 4 3 2 1	
	人との関わり	職場の人とほどよい関係を保つことができる(休み時間を含む)	5 4 3 2 1	
	意思伝達	自分の意思を相手に伝えることができる(質問を含む)	5 4 3 2 1	
清潔	身なりを整え、清潔さを保つことができる	5 4 3 2 1		

令和5年度 作業学習評価【窯業班】1学期

項目		伊藤	村田	浜	花田	野崎	永田	今池	金子	清尾	鳥羽	森	谷口
作業態度	素直さ												
	意欲												
	責任感												
	協調性												
	報告												
作業能力	時間の理解												
	持続性												
	効率性												
	確実性												
	順応性												
	準備・後始末												
	操作性												
対人関係	安全性												
	体力												
	挨拶・返事												
	言葉づかい												
	人との関わり												
意思伝達													
清潔													

教師用

- ・生徒の自己評価用紙と教師の評価用紙の評価項目を統一。(実習評価の項目と同じ)
- ・教師用では担当だけでなく、窯業班全職員で全生徒を5段階評価。(窯業班全職員で評価したものを平均化)
- ・生徒一人一人に評価を開示。
- ・現場実習の評価表と比較して課題を意識。

3. 成果と課題③ 総合サービス班

作業学習で年間目標を達成するには…



生徒の実態

- ・技能
- ・言葉の解釈

必要な力（清掃）



掃除の手順を考えて実践するためのワークシート



清掃技能検定



作業班の特徴（幅広いサービス）

- ・コミュニケーション
- ・仕事態度

必要な力（接客）



指導方法

作業班の特徴に合わせて必要な力を身に付ける方法を考えよう。



- ①清掃技能検定を通して、作業中の実態から**必要な力（清掃）**の向上の為のワークシートを作成。
→清掃に必要な工程（**手順**や道具、気づき）を考え、**計画**できるようにした。
→検定結果や活動の動画を使って、「丁寧に」などの**曖昧な言葉を確認**できた。
→力を生活に**汎化する場面の少なさ**に課題があり、家庭や**教育課程との連動**が必要。
- ②必要な力（**作業態度**や**コミュニケーション能力**）の育成のため、生徒同士の話し合いの場を設定。
→声を掛け合う、発表するなどの**積極性**が表れ、**作業態度**が改善した。

日付	令和 5 年 5 月 25 日	
メンバーの名前と人数	橋本 理原 田	3 人

掃除場所	場所の名称: 3F 多目的トイレ ※図(簡単にスケッチしてみよう)
------	--------------------------------------

必要な道具	・はしこ ・ぞりこ ・モップ ・ぞうきん ・ビニール袋 ・スポンジ
-------	--

考えられる汚れ	・便尿 水アカ (ほこり)
---------	---------------

手順 (作業工程)	<ol style="list-style-type: none"> ① ゴミをあげる。 ⑦ カゴうすむ式で ② トイレの便座の掃除 ⑧ 水洗を拭く。 ③ ティッシュを置く ⑨ 片付け。 ④ 床のふきあげ ⑩ 水洗い。 ⑤ 床を掃く ⑥ 水洗式はモップで拭く。
--------------	--

作業完了までにかかる時間(予想): 約 20 分

掃除するときに 窓の開け忘れ、拭き忘れに注意すること

結果	作業完了までにかかった時間: 約 17 分
----	-----------------------

気づき: 協力してできていた。かがみがすごくきたなかった。

次回に向けての工夫: 自分の役割を理解して動く。

自分の役割を理解して動く。

手順 (作業工程)	<ol style="list-style-type: none"> ① ゴミをあげる。 ② トイレの便座の掃除 ③ ティッシュを置く ④ 床のふきあげ ⑤ 床を掃く ⑥ 水洗式はモップで拭く。 ⑦ カゴうすむ式で ⑧ 水洗を拭く。 ⑨ 片付け。 ⑩ 水洗い。
作業完了までにかかる時間(予想): 約 20 分	

作業終了までにかかった時間 約17分

気づき : 協力してできていた。
かがみがすごくきたなかった。

次回に向けての工夫 : 自分の役割を理解して動く。

成果と課題④ 手工芸班

作業学習で年間目標を達成するには…

Aさん

作業学習年間目標

- ①安全に作業できる。
- ②集中して作業できる。
- ③できましたと報告する。

作業学習中の実態

- ①隣で作業している人の動きが気になる。
- ②工程の手順を自分で変えることがある。
- ③集中が途切れることがある。

目標達成のために、こういうことをしてみました

- ①作業する場を固定する（一人の場所を確保）。
- ②視覚的に分かりやすい手順表を準備。
- ③活動の終わりが分かるよう、タイマーを使用し、休憩時間までの作業量を提示する。



場所の固定



タイマー



手順表

こんな条件と方法で効果を調べると

結果について、考察

- ①Aさんは視覚優位であることが確認できたため、**視覚的に理解しやすい手立て**が効果的である。
→作業終わりを作業量で明確に提示することが有効であった。

このような結果が分かりました

- ①以前は、隣で作業する友達とトラブルになる場面があったが、机で作業する場所を仕切った後は、ほとんど見られなくなった。
- ②手順表を指で確認しながら作業を進めるようになった。
- ③仕事が終わると休憩または終了ということを理解し、提示された量が終わるまで、集中して作業することが増えた。

教師の専門性（実態把握と指導支援）が大事です。



手工芸班

- ①作業中の**実態把握**から、作業学習の年間目標達成に至る**手立て**を順序だてて整理
→本人の成長を確認すると共に適切なかかわり方を考え、**教師の専門性**を高めた。

成果と課題⑤ マルチ班 作業学習で年間目標を達成するには…

自ら目標を設定できる

「～にもかかわらず、～すべし」と自律的に判断できるようになる

+ 道徳
道徳自体への尊敬感情

「お客さんに喜んでほしいので、珈琲豆をひこう」



場の状況を総合的に判断できるようになる

相手の立場に立って物事を「～とみなす（判断する）」場面を意図的に増やす

年間目標

①衣服の着脱や荷物の整理等の身辺自立の方法を覚え、生活の中で実行する。

作業学習（合わせた指導）

教科学習

通知表	
1	目標達成状況
2	達成状況
3	達成状況
4	達成状況
5	達成状況
6	達成状況
7	達成状況
8	達成状況
9	達成状況
10	達成状況
11	達成状況
12	達成状況
13	達成状況
14	達成状況
15	達成状況
16	達成状況
17	達成状況
18	達成状況
19	達成状況
20	達成状況
21	達成状況
22	達成状況
23	達成状況
24	達成状況
25	達成状況
26	達成状況
27	達成状況
28	達成状況
29	達成状況
30	達成状況

通知表

教科・作業・年間目標を判断力でつなげよう。



マルチ班

- ①判断力（資質能力の3つの柱）に着目することで、教育課程全体で取り組める。
→教科等の学習の中で、相手の立場に立って物事をみなす判断力を育む。合わせた指導の中で、場の状況を総合的に判断する力を育む。さらに、道徳に対する尊敬の感情と合わせることで、自律的に判断できる力になり、年間目標の達成につなげた。
※道徳は「もし～ならば」の条件が付かないため、「～にもかかわらず、～すべし」になり得る
- ②教科等、作業学習、年間目標の考え方に一貫性を持たせる。
→年間目標の末言「～を実行する」の自律性を目指すことで評価を一貫した

Aさんの成長

指示待ちにならずに、
相手の考えを踏まえて、
自分で判断できたね！

- ①短いのと長いのはいつも端に置いてる…
- ②あれ、先生は中くらいの長さをこう並べるんだ
- ①+②→つまり、長さに細かい順番があるんだ

いろいろな状況を総合して、
自分のすることを決めたね！

- ①お客さんが喜んでくれる。
- ②自分の力で製品が作れる。
- ③作業の時間になった。
- ④自分の成長を感じる。
- ⑤社会の一員として働きたい。
- ①+…⑤→お客さんに喜んでほしいので、
コーヒー豆を挽こう

自分で立てた目標に向けて、
積極的に取り組んでいるね！

- ①ひとの役に立ちたい（道徳）。
- ②じぶんの意志で行動できる（判断力）。
- ①+②→あそびたいにもかかわらず、製品づくりをしよう



教科学習（数学）



作業学習（合わせた指導）



年間目標（現場実習）

「私は～とみなす」の反省的判断

「～ので、～する」の総合的判断

「～にもかかわらず、～すべし」の自律的判断

Aさんの教科・合わせた指導・年間目標における「判断力」は、このように成長するのではないか

R5 高等部研究の総括

各班の実践による教育的効果

- 実習評価表を活用し、必要な力や教材教具、指導支援を考えることで、学校の学習と卒業後の生活が繋がった。
- 評価方法を工夫することで、その整合性を高めると共に、生徒の振り返りや目標設定の学習で活用できた。
- 作業日誌やワークシートを工夫することで、自律的な学習を進めたり、力を定着しやすくしたりすることができた。
- 教育課程に共通する力を活用することで、年間・作業・教科の目標に一貫性ができた。
- ▲力を汎化する場面をつくるため、家庭や教育課程と連動させる必要があった。
- ▲作業学習の評価を担任と共有する明確な場面がなかった。

研究の運営による組織的効果

- 作業班で集まる機会が、作業学習について深く考える機会になる。
- 職員が課題を自律的に研究することで、様々なアイデアを生んだ。
- 教育課題に対する高等部職員全体の意思が具体的に捉えやすくなった。
- ▲データや検証方法にばらつきがあるため、一律に考えることができなかった。
- ▲成果が個々の職員の意思に委ねられるため、安定した進捗や成果は望めなかった。